

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和元年度第2回 社会教育委員・公民館運営審議会委員 会議		
開催日時	令和元年12月10日（火曜日）14：00～16：30		
開催場所	近江八幡市役所南別館2階 教育委員会会議室		
出席者 会 長◎	<社会教育委員> ◎大橋委員 楠亀委員 蒲生委員 木村委員 明石委員 福井委員 松岡委員 村北委員 吉井委員 中野委員 三木委員 城念委員 重野委員 <教育委員> 久家委員 西田委員 <説明者・事務局> （教育長代理） 野瀬 教育部次長 （挨拶） 村井 生涯学習課長 （事務局） 佐竹 生涯学習課専門員		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 佐竹 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要 約	要約した理由	

司会：	それでは、今年度第2回目の「社会教育・公民館運営審議会委員の会議」をただ今からはじめさせていただきます。12月に入って、皆さん公私ともに忙しい中、また本日は教育委員さまにも2名参加いただいております。活発な議論をしていただけたらと思います。はじめに生涯学習課長であります村井よりご挨拶申し上げます。
課長：	あらためまして、こんにちは、今もありましたが、8月にこの会議の第1回目を開催させていただきました。今回はその2回目ということで、また今回は教育委員の皆様にも来ていただきまして、この会議を設定させていただきました。 最近、子どもの教育に関わる部分で、いろんなニュースが世間では流れています。特に虐待のことに关しては、昨日も8ヶ月の子どもが親から暴力を受けるということもありましたし、そうしたことが頻繁に起こる中で、われわれ大人として、保護者として、守られるべき子どもの姿というものを大事に行きたいと思っています。ただ、近江八幡市でもこうした虐待に関しても取り組みを行きたいのですね、ひとつ、皆様方に良い意味でのご紹介をさせていただこうと思い、資料としてお手元に置かせていただきました。「若い季節」という発行物がありますが、実は、この前の日曜日、12月8日に東京で「第41回少年の主張全国大会」が開催されました。そこで、近江八幡市を代表して、参加しておりました安土中学校の3年生奥田美里さん、お手元の資料めくっていただきますと、その奥田さんの作文が載っているのですが、全国大会で、「努力賞」を受賞されました。東京で大会があったわけですが、その場で発表をされた代表者12名には選ばれなかったものの、6月に本市開催の「伝えよう熱い想い」で市内各中学校から代表の方が1名ずつ発表されて、その中で近江八幡市の代表として、夏休みの終わりに高島市で行われた県の大会で最優秀に選ばれ、先ほど紹介した全国大会で努力賞獲得ということになりました。その様子は、YouTubeで動画を見ることができます。その大会自体は3時間にも及ぶ長い大会なのですが、YouTubeを開けてもらって、「第41回少年の主張」で検索してもらいますと見ることができます。2時21分ぐらいに、奥田さんの表彰の場面が出てきます。作文はここでは読んでおられないのですが、資料に作文が載っていますように、自分の発達障害のことについて触れられた作文です。周りの人の支援を受けて、自分も人のために役立つ仕事を行きたいと、そんな決意を述べられた作文です。立派に受賞されたのでご承知おきください。こうした子どもたちが、近江八幡にいて、自分が本市の誇りであると感じています。 本日、限られた時間ですが、少しでも子どもたちにとって有意義な活動ができればと思っていますし、この会議でご意見を頂戴してそれぞれの活動に生かして行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。
司会：	どうもありがとうございました。(03:37) 続きまして、本日は教育委員の皆様のご出席もありますので、皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。私の方でお名前を呼ばさせていただきますので、順に、何か一言ずつお願いいたします。 大橋先生お願いいたします。(04:02)
委員長：	皆様こんにちは、委員長を務めさせていただいております大橋でございます。今年で8年目になります。ちょっと長くやり過ぎておりまして、いずれ後身に譲りたいと思いますけれど、とりあえずできるところまでやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。(04:22)
司会：	続きまして、中江しげ子さんが副委員長でございますが、本日はご欠席です。そうしましたら、楠亀さんお願いいたします。(04:32)
楠亀：	皆さん、こんにちは。楠亀です。名簿に、「滋賀生涯学習インストラクターの会代表」と書いてありますが、今年度から代表を辞退いたしまして、従前通り会の方には関わりを持たせてもらってはいますが、後任の方に代表は替わっていただきました。近江八幡で長いこと社会教育委員をやらせていただいておりますが、何か

	のお役に立てているか自分自身では解っていないのですが、課題に対しては真剣に取り組んでいるつもりです。(05:26)
司会：	続きまして蒲生さんお願いします。
蒲生：	蒲生と申します。市の「人権尊重のまちづくり推進協議会」の会長をしております。今年9月に、人権の県の大会が近江八幡市で開かれました。近江八幡市もそれに乗りまして、県の大会を記念して、さらに人権を大切にしようという活動を行いました。今年の9月の大会は、そういった意味で意義があったと思います。 よろしくお願いいたします。(06:00)
司会：	続きまして木村さんお願いします。
木村：	近江八幡市の「文化団体連合会」の副会長をさせていただいております木村でございます。この会議につきまして、このところ顔を出させていただいておりますので、申し訳なく思っております。他の団体の事業などと重なりまして、どうしても時間がとれなくて・・・申し訳ございません。私も、よくわからないままこうした会議に出させていただいておりますが、孫育ての最中でありまして、何かお役に立てることがございましたらと思って参加させていただいております。 よろしくお願いいたします。(06:42)
司会：	明石さんよろしくお願いいたします。
明石：	はい、皆様、こんにちは。「校園長会」代表の沖島小学校の明石と申します。前回のこの会議の8月は、実は今年「へき地教育研究会」の近畿大会が沖島で、この10月11日に有りまして、その準備がございまして欠席させていただきました。地域の信頼を学校がしっかりとつかめるように、これからも努力して参ります。 是非またよろしくお願いいたします。(07:17)
司会：	福井さん、お願いします。
福井：	はい、こんにちは。市「スポーツ協会」の代表ということで寄せていただいております。2期目3期目になるのでしょうか、当初はなかなかわかりにくい委員会でしたが、昨年度、部会制、2部会制になったということで、少しずつ皆にわかりやすく取り組んでいただいていると思いますので、わかるように努力をしたいと思います。 よろしくお願いいたします。(07:52)
司会：	続きまして、阿加井さんは市の「PTA 連合会」の代表でいらっしゃいますけれど、本日はご欠席でございます。そしたら、松岡さんよろしくお願いいたします。
松岡：	市「連合自治会」の副会長をしております松岡です。社会教育委員会会議につきまして、今年は初めての参加ということになります。昨年は部会などについてもいろいろ参加はさせてもらっております。西中のテニスの外部コーチをさせてもらっておりまして、生徒さんたちとはいろいろ関わらせていただいております。 今後ともよろしくお願いいたします。(08:34)
司会：	村北さんお願いします。
村北：	皆さん、こんにちは。この委員会は、メンバーとしては初めてなのですが、「島学区コミュニティセンター」のセンター長と、市の「まちづくり協議会」の代表として参加させてもらっています。私の地域の宣伝をするわけではないですけど、近江八幡市で一番小さな集落でございます。そんな中で、やりやすいのかどうなのかは別として、地域と子どもたちが一緒になっていけたらということを念頭に置いて

	おりまして、もちろん「まちづくり協議会」、隣接しております島小学校、それとこども園、「白鷺こども園」というのですが、ともどもが、地域一帯となって、一緒になって、子どもたちを育てて行けたらというような思いで取り組まさせてもらっています。なにかこの社会教育にお役に立てればと思っておりますけれど、若輩でございますのでどうぞよろしくお願いいたします。(09:57)
司会：	吉井さんお願いします。
吉井：	安土の吉井菊枝と申します。社会教育委員としてというよりも、お茶を長いことやっておりますので、その関係で信長まつりや、文化協会を長い間やってきました。信長まつりでは、最初から35年間、いまだに、何か役に立つことがあるのかはわかりませんが、お声がかかりますので皆と一緒にやっています。文化協会に関しましては、3、2年前までは安土の文化協会の会長をさせていただきまして、そのおかげで、近江八幡市と交流がありました富士宮市の文化協会とも交流させていただきました。この、狭い地域の中だけでなく、広い地域も見させていただいたおかげで視野が広がりました。これからも、お茶を通じて子どもたちに、昔は、おじいさんやおばあさんに教えてもらってきたことなどが、今は知る機会がないので、お茶を通じて子どもたちに関わる機会がありますので、ちょっとでも教えて行きたい、昔のことを繋げて行きたいと思っております。明日早速、今年度の安土幼稚園のお茶の教室です。今も準備で、バタバタしてここへ来たのですが、引き続き小学校や伊庭家の茶会もありますので、皆さんも一度のぞきにきてください。 よろしく願いいたします。(12:01)
司会：	中野さんお願いします。
中野：	中野迪代と申します。私はここ（近江八幡市）の出身ではないのですが、1973年ぐらいからここに居りますので、もうこの人間になったようなものです。仕事は岐阜でしてたもんですから、岐阜に半分、こちらに半分で生活してたのですが、定年後はこちらにずっとおりまして、子どもを通じて、今は孫を通じて皆さんと接触させていただいています。1980年の初めから滋賀県に来ます留学生の支援、AFSといいます、高校の留学生ですが、そのホームステイ先を探したり、学校を探したり、1年間の期間中面倒を見たり、ということをやっています。それから、定年後は、お話研究会というのがありますが、そのメンバーにさせていただいて、各小学校からの子どもや、高校で保育授業が家庭科であるので、そちらに呼んでいただいたら、そちらに行って絵本とかお話とか、子どもとの接し方の授業などをやっております。あまり社会教育として役立つかどうかと思いつつ、大分長いことここに加えさせていただいております。(13:43)
司会：	三木さんお願いします。
三木：	三木、「勇雄=いさお」と書いてあるんですが、「たけお」というふうに呼んでくれていますので、ミキタケオでございます。吉井さんと同じように、安土の文化協会の役をやったり、まちづくり協議会の一翼をになったりというようなことで、日々はやってきました。この名簿には、「滋賀県自然環境保全学習ネットワーク会」と書いてあるのですが、なにせ自然という、どこまで行ってもわかりきらないというものに、日々関心を持ってもらうということをやっています。この社会教育委員というものも拝命いただいているのですが、なかなかわかりきらない。このわかりきらないと言うところから何かを見つけ出せば、という風なことを思いながら、正解はどこにあるかはわからないのですが、何かしら見つけ出せたらと思っている次第です。(15:08)
司会：	城念さんお願いします。
城念：	皆さん、こんにちは。城念久子と申します。20年以上、23年くらいですか、安

	土の公民館で皆さんの指導とか、共に学ぶことがございまして、1年間だけ公民館長をさせていただきました。本当に、地域の人々に守られて仕事をさせてもらっているのですが、今回「コミュニティセンターと社会教育」という部会に分かれて、検討中なんですけれど、あまりにも時代が変わってきていますので、どうあるべきかという答えがなかなか見つからない。地域性もあって。その中でも皆さんお知恵を集めながら、良い行動ができれば良いなと思っています。現在は、地域ではガールスカウトの活動の団長をさせてもらったり、吉井さんと同じ活動をさせてもらっているのですが、安土に1カ所ヴォーリズ建築がございまして。そこが、市の指定文化財ですけど、築106年を向かえる、旧伊庭家住宅という建物ですけど、その利用運営団体に手を上げさせていただいて、たまたまここにおられる佐竹さんにもお世話になったのですが、選ばれて、今6年目を迎えて建物の魅力とともに情報発信をできる場所として活用しています。いろんなことで、宝は人だと思っていますので、皆さん繋がっていったよい方向に向かえればと思っています。(16:47)
司会：	重野さんお願いします。
重野：	はい、近江八幡に住んでおります重野満子と申します。よろしくお願いいたします。私は、ずっと滋賀県の職員でございまして、定年退職した年から安土城考古博物館に館長として勤務しておりました。現在の主な活動は、「国際ソロプチミスト近江八幡」に属しておりまして、慈善団体ですけども、特に社会教育に関する活動としては年に1回、子育て支援の集いを会員全部で行っておりまして、年1回と言うことですけど、いろいろな催しをボランティアでやっておりますが、精一杯やらせてもらっています。私はその他に婦人会の関係とか、いろいろなことをやっておりますけれど、現在主にやっておりますのは国際ソロプチミスト近江八幡でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。(18:02)
司会：	ありがとうございます。続きまして教育委員の自己紹介をお願いします。まず、教育長の日岡昇は本日議会出席のため欠席させていただいております。 教育長職務代理者であります久家さんお願いいたします。(18:30)
久家：	こんにちは、教育長職務代理者をさせてもらっております、久家昌代でございます。よろしくお願いいたします。私は、小学生と、中学生のごどもが居りまして、教育委員として子どもたちの授業とかを見させていただいて、子どもたちの様子をみて、どういったことをしなければならぬのかと言ったことをいつも考えて、自分の子育てにも役立たせていただいております。 よろしくお願いいたします。(19:11)
司会：	委員の西田さんよろしくお願いいたします。
西田：	みなさんこんにちは、教育委員をさせていただいております西田佳成と申します。私は、3年前に、私が住んでいるのは安土なんですけど、安土の自治会長等々をさせていただきながら、近江八幡市のPTAの連合会父親代表委員長とかさせていただいております。様々な経験を元に子どもたちに、如何にしあわせになっていただくか、楽しく学校生活を送っていただくかという部分を考えながら取り組ませていただいております。 よろしくお願いいたします。(19:56)
司会：	ありがとうございます。本日安倍映子委員がご出席の予定ですが、まだお見えではありません。それから、八耳委員が本日は他の用務でご欠席ということです。 そうしましたら、つづいて事務局ですが、本日教育部長も議会出席でお見えではありませんので、学校教育課課長であります野瀬次長よりお願いいたします。(20:30)

野瀬次長：	あらためまして、こんにちは。教育委員会事務局の次長兼学校教育課の課長を預かっております野瀬準子と申します。今日は、議会の関係で教育長が欠席させていただきますので、代理と言うことで出席させていただきました。皆様のこの会議に出席させていただきましたことを学ばせていただいて、学校教育の推進に活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。（２１：００）
司会：	あと、先ほどご挨拶申しました課長の・・・
村井課長：	村井です。元々が中学校の教員ですが、八幡中学校・八幡西中学校・八幡東中学校とお世話になりました。どうしても中学校の子どもたちとの関わりという目で物事を見てしまうのですが、どうぞよろしくお願いいたします。（２１：２０）
司会：	最後、司会をさせていただいております佐竹と申します。よろしくお願いいたします。 ということで、一通り自己紹介が終わりましたので、次に行きたいと思います。 まず、資料の確認をさせていただきます→（配布資料につき説明、確認）。（２３：１２） そうしましたら、ここからの進行は、条例第６条の規定により、委員長に議長をお願いして会議を進めていただきます。委員長よろしくお願いいたします。（２３：２６）
委員長：	それでは、まず、次第には挨拶とございますのでご挨拶からさせていただきます。本日は皆様方には、何かとご多用の中、本会議にご出席いただき誠にありがとうございます。本日の会議は、通常の会議に、教育委員さまがお見えでございますので、加えて皆様方と意見交換がさせていただければと思います。限られた時間ではございますが、有意義な会議となるよう皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。（２４：０８） それでは、次第の２の報告・協議事項に入らせていただきます。まず、（１）の「各部会活動の報告」ですが、本日は教育委員の皆様にもご参加いただいておりますし、部会長の方がご欠席と言うこともございますので、私の方から、簡単にこれまでの取り組みについてご説明させていただきます。補足等ございましたらよろしくお願いいたします。（２４：４０） 「部会制」についてですけれど、先ほどご挨拶の中で部会制について触れましたけれど、部会制につきましては、平成２９年度の第１回社会教育委員会、平成２９年６月２９日に行われておりますけれど、そのときに部会制の提案をさせていただきました。実は私、挨拶で申しましたけれど、この委員にならせていただいて８年になります。前任者は私の指導教員に当たりますけれど、その方がご高齢で、退任なさるということで、おまえやれということで、ご指名を受けましてさせていただきました。最初の数年間会議に出席させていただいて感じたのは、確か年に２回開催で、事務局からいろんな活動の報告等がございまして、それに対して質疑が行われる、そのあと、皆さん方は独任制でいらっしゃいまして、いろんな役割を地域でされていらっしゃる。そのときお話を聞かせていただくということで終わっていたと思います。それが果たして、社会教育委員の会議たるものなのかという疑問をずっと持っておりました。そうじゃないだろうと私自身は考えまして、なぜそう考えたかと申しますと、実は私、長浜市でも委員をしております、当時副委員長でございましたけれど、そのとき委員長が、「こんなもん、会議でない。」という感想を持っておられまして、近江八幡市も長浜市と同じだったんです。で、自主研修をやらうと言うことで、実施されました。それが新鮮だったものですから、それを受けて部会制ができないかということで考えさせていただきました。１年間のスパンをおいて提案をさせていただきました。長浜市では、その１年前に部会制を始めました。その結果を受けて、近江八幡市でもできないかなということで平成２９年の第１回の会議で提案をさせていただきました。（２６：５７）

このときは、部会制に向けてのテーマの検討と言うことで、基本的には2つの部会を設置してはどうかということで、2つのテーマを設けて部会を作るということになりました。一つは、「生涯学習とコミュニティセンターとの連携」、もう一つは「地域と学校教育の繋がり」という2つのテーマで、部会制がとれないかということで検討させていただきました。

提案理由としては、今日配られた参考資料の7頁のところに、社会教育委員の職務が書いてあります。17条のところですが、これが実質的に機能していないように思われましたので、一度原点に立ち返って社会教育委員会のあり方、社会教育委員の責務について考えてみようということで、こういう提案をさせていただいたというわけです。(28:11)

その第1項において、「社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。」ということで三つの号がございますが、「一 社会教育に関する諸計画を立案すること。二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。三 前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。」ということが書いてございます。しかし、これらが全くなされていない、と私自身は感じました。これをしなければ社会教育委員でもないし、これを論じなければ社会教育委員の会議でも何でもない、というのが私の強い思いでありました。(28:57)

第2項で、「社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関して意見を述べることができる。」前のことはわかりませんが、どうもこれもなされてはいないと思いました。ということは、社会教育委員で有りながらこういうことをなにもやっていない。これで果たして社会教育委員といえるのか、委員が構成している会議といえるのか、というのを私ははなはだ疑問に感じたわけです。では、こういう条件を満たすためには、一体何ができるのか、ということで考えたのが部会制と言うことでございます。この部会制はすでに彦根市さんでやっておられまして、そのことは聞いておりましたので、彦根市さんのことについてはまた後でお話ししますが、そういう例もありますのでそれを参考にしてできないかなということで、まず、長浜市の方で始めました。長浜市も彦根市さんにいろいろ学ばせていただいて、部会制をとらせていただいたというわけです。近江八幡でもそれができないかというわけで、事務局の方をお願いして、彦根市さんの方でいろいろ実際を聞いていただきました。それを元にして2つの部会について検討してみたわけでありました。部会制の設置について決定していただいたのが、平成29年度の第2回の社会教育委員会です。平成29年の12月4日であります。このときに検討した内容は、2つの部会を設けるということで、1つは「学校と地域の連携・協働」という部会、もう一つは「コミュニティセンターと社会教育」という部会。この2つの部会が設置されて、機能しているはずであります。と申しますのは、私自身は直接部会に参加していませんので、たぶんそうであろうと、期待を込めて言っているわけでありまして。この2つの部会が会議で承認されたということです。(31:10)

この意義がどこにあるかということ、この設置は時宜にかなっていたと思っております。なぜかと言いますと、コミュニティスクールですね、学校運営協議会制度に関する法改正が平成29年4月に施行されております。コミュニティスクールですから、地域と学校が一体となって協働の関係をもち、学校運営を行って行く、子どもたちを守って行く、育てて行く。こういうことが努力義務化されたということでもあります。(31:47)

学校運営協議会の設置が教育委員会の努力義務になりましたし、学校運営協議会の委員に学校運営に資する活動を行うもの、いわゆる地域学校協働活動推進員、これを教育委員会が委嘱できるということになりました。この地域学校協働活動推進委員として、今日ここにいらっしゃる社会教育委員の皆さんがふさわしいと、私は思っております。地域に根ざして活動をされておられますから、そういう方々がこういう役割を引き受けてくだされば、学校との連携・協働というのが非常にスムーズに行くとは私は思っており、期待を持っています。ということで、この2つの部会、特に学校に関する部会が非常に時宜にかなったものであったのではないかと私は思っております。(32:39)

その後、部会の設置と構成メンバーが決定されたのが、平成 30 年度の第 1 回の社会教育委員会です。平成 30 年 8 月 3 日に行われています。部会に関する資料に、目的が書かれておりまして、「部会を通じて社会教育委員として研鑽を積み、活発な活動することにより、本会議の活性化、具体的な活動への展開を図っていくため、テーマにそって部会を設置する。」そして、先ほど申しました 2 つの部会が設置されました。そして、部会の進め方として、「各部会を研修の一環として年 2 回程度の活動」を行うとなっています。実際に部会が開催されているわけですが、たとえば「コミュニティセンターと社会教育」部会は、平成 30 年 8 月 21 日に安土支所において行われています。それから、「学校と地域の連携・協働」部会は、平成 30 年 8 月 22 日に桐原小学校で行われております。このときには、「ふるさと教育」とか「地域の偉人についての学習」といったことについて協議・検討がなされております。そのように会議録には載っております。(34:19)

そして、先進的な取り組みをしている自治体の研修ですけど、これは平成 30 年度第 2 回社会教育委員会において行われました。平成 30 年 11 月 13 日安土支所で行われています。このときに、先進的な取り組みをしておられます、彦根市の社会教育委員の会議の議長 森 将豪先生から、縷々部会制についての詳しいいきさつとか説明をしていただき、皆様に研修をしていただきました。部会制とはどういうものかということについて、皆様方と一緒に勉強させていただきました。そして、部会活動の報告が第 3 回の社会教育会議、平成 31 年 3 月 2 日に行われていますけれど、このときに 2 つの部会から報告がなされています。これが、今日までの部会制の流れでございます。まだ、出来て 3 年ほどということではございますけれど、そういう中で部会制が設置されて、それなりの活動がなされているということでございます。詳しいことは、本当は各部長さんからご報告いただくとよろしいのですが、本日はご欠席とのことでございますので、それはできませんけれど、こういう流れの中で部会制が機能しているということです。(36:01)

今後の方向も含めてもう少し説明させていただくと、長浜市の事例を参考にしてではございますけれど、社会教育委員は積極的に教育委員会のいろんな活動に関わっていかざるを得ないのではないかと私は思っています。関わっていかれるほうが、良いのではないかと私は思っています。たとえば、長浜市の場合ですと、一つの例でありますけれど、市の「教育振興基本計画」の策定委員会の委員として、必ず社会教育委員が参画されています。市の「教育振興基本計画」を策定するときの委員として、社会教育委員が必ずメンバーに入っています。ということは、どういう風な基本計画になっているのかということとをすでに社会教育委員さんはそこで理解されていらっしゃる。全員がではないですが、一部が入っていらっしゃる、そういう形で参画いただいているということです。それと、市の教育委員会の事務事業評価、この評価の委員会の委員にも社会教育委員は入っている。どういう成果が出たのか、問題点は何なのかといったことを社会教育委員もそこで知ることが出来るという仕組みになっています。教育に関することは、学校教育だけではなくて社会教育・生涯学習も入っております。これは基本計画もそうです。そういったことに関して、社会教育委員さんの目で、どういったことかということを知っていただくということは、私は大事なことでないかと思います。私は、近江八幡はわかりませんが、なんともいえませんが、もし入っておられないとすれば、そういった段階から初めて行っても良いんじゃないかと思います。ただしこれは、教育委員会の方で決めることですので、なんともいえませんが、こういう風に長浜市はなっているということです。ただし、長浜市の場合には、生涯学習課は市長部局に属しておりますので、教育委員会ではございませんので、ここはシステムが違いますのでなんともいえませんが、そういう形をとるのも良いんじゃないかと思っております。(38:30)

それから、長浜市で今年やりましたのは、庁内の関係部署との意見交換・連携であります。どういうことかと言いますと、長浜市もこのことと同じように、「コミュニティセンターと社会教育」・「学校と地域の連携・協働」という 2 つの部会を持っております。同じような部会です。この 2 つの部会に関し、特に関係の深い庁内の部署の方からいろいろとご説明をお聞きして、今後どうしていったらよいか、連携をど

	うしていったら良いかなどを話させていただきます。教育委員会のほうもですね、コミュニティスクールの運営に関しまして具体的に職員の方からレクチャーを受けてまして、いろんな問題を皆さんで共有することなど、そういう庁内の関係部署とですね、意見交換あるいは連携、こういったことをさせていただいています。まず、中から研修と言いますか、理解して行くというか、こういうことも必要ではないかと思います。(39:46) それから、先ほど少し申し上げましたが、コミュニティスクールへの参画、これを地域学校協働活動推進委員として活動いただけると良いのではないかと、これは教育委員会で委嘱されますので、教育委員会の方で決められるということになります。今日はお見えになっておりますので、その辺の意義ですね、その辺について私はお聞きしたいと思っています。長浜市の場合には、制度としては現在もうけておりません。学校個々で特殊実情もございますので、学校に応じてこういった制度をもうけるかどうかは検討するという立場ですので、これについては、長浜市は今月26日に意見交換会をいたします。そのときにだいたい、教育委員会の方針がわかりますので、そういったことも含めて、今後連携を図れるところは連携を図って行くと言う形で、具体的にこういったことをやって行くことによって、私は教育委員会の皆様方と、それから社会教育委員の皆様方とが連携できるのではないかとこの風に思いますし、部会制もそれを通じて、少しでもポイントを絞って取り組みが進んで行くのではないかと考えております。このあたり、今後の課題として考えていただければ私としては思っております。(41:10) 本来であれば、各部長さんから部会の報告があればよろしいのですが、お見えでございませんのでわかりませんが、私の方からはだいたいこの流れであるということと、今後どういう方向で、社会教育委員の会議、あるいは部会を持って行けば良いのか、私の思いを話させていただきました。(41:32) 皆様方から、追加とか、こうしたら良いのではという意見をいただけましたらありがたいのですが。(41:55) 今言われました、コミュニティスクール？今までは、各学校、小学校、協議会というのがあって、その中に代表者とかいろんな方がいらして、学校と様々な問題点とかを話されるというのがあって、この学校協議会がコミュニティスクールに制度が変わる？というふうに認識しているのですけれど、今、教育委員会から学校協議会が委嘱されてという形になってまして、それが、人数が増えるのか？今は6人か8人かなあ。 <課長： 学校運営協議会は10名です。> (42:50) そういったことと、各学区でボランティア委員会というのがあるのですが、学校で独自に作っている、ボランティアの方はボランティアの方で集まってもらって、学校の要望とか、出来ることを協議しているというのがあるのですけど、そういうのを一つにするというのも有りかなあ。何か情報を共有することについては、良いかなあという風には思っています。そういったこともあって、今言われた通り、八幡で長浜みたいに基本計画とかといったところには全然参画とかはないので、またどういう方が？そこまでする方が良いのか、まずはコミュニティが大事ではないかと僕は思っています。そのところは、基本計画とか言うのは、たぶん、市の連合自治会長会とか、学区まちづくり協議会の方に、資料はいろいろ行ってるが参加するというのはないので、その辺のところは、意見が言えるところはない、というのは委員長が今おっしゃったとおりですが、そこまで入っていく、今長浜ではそういう風にされているのは、市民の感覚からは良いかなあという風には思っています。なかなか、僕らがそういう教育の基本計画とか市の基本計画とかは、かなり分厚いものですし、僕らがもらってもなかなか読めないという現状がある、その辺のところの中でも、一つのポイント、社会教育とか、ポイントを絞ったら良いのかなあという風に思っています。(45:08)
委員長：	はいどうぞ。(45:13)

三木：

委員長から部会制という提案をいただいて、なるほどなあと、一旦はそういう風に思いましてははじめました。では、中身として何をどうしたのかと言いますと、うちの部会は、皆無に等しいというのが現状だと思います。私は、「コミュニティセンターと社会教育」という部会に参加してやってみようと思ったのですが、まず、「コミュニティセンター」と「社会教育」というものについて、整理をしてみようと、若干手がけてはみたのですが、そもそもこの「コミュニティセンター」って、一体何なんだと言う風な疑問が出てくる。この「コミュニティセンター」の中に、まちづくり協議会というのが、「コミュニティセンター」という入れ物の中にそれが入って運営をやるのだと、市としては言っている。じゃ、「コミュニティセンター」というのはどこが管轄するのですかということ、まちづくり支援課（＝まちづくり協働課）が中心になってくる、中身を見ると貸し館が業務ですよと書いてある。じゃ、社会教育というものは、どこが・誰が主体になって、どう進めるのかというのを紐解こうと思うと、そもそもまちづくり協議会とは、と書いてあるのを見ると、生涯学習のようなものであるとか、以前「公民館」でやってた中身のことをやりますよ、というふうに近江八幡市では位置づけをしている。では、その「まちづくり協議会」は市としてはどこが中心になって、まとめて行くという、市のどこになるのか。というといよいよよくつかめなくなってくる。という風なことがありますて、そんな中で、コミセンなんか使って活動しているいろんなグループなんかは、たとえば文化協会なんかは文化観光課が所管していただいている。社会教育という切り口では、それぞれがいろいろな側面を持っているのですけれど、そこが有機的に繋がったものになっているのかがよくわからなくなって、これを検討するについては、遅ればせながら今日の会議の通知をいただいていよいよというときに、おやなにもしていないのではないか？一度部会長さんに事務局から取り持っていて、遅ればせながら、時間足らずでもしゃべってみる必要があるのではないかと思ったんですけど、差し迫ったことでそういう機会を得ることも出来なかったわけです。先ほど委員長からのご指摘の、こうゆう役割ではないのかということのを改めて整理してお話をいただいたのですけれど、そこに行くまでに、われわれから日々関わっている、先ほど申し上げたコミュニティセンターであるとか、まちづくり協議会であるとかいう風なものは、市の中でどういう繋がり、どう動いているのかということのを改めて掘り起こす必要があるのではないか、そうでないと私たちがどこへ向かって、どういう風に意見を申し上げたら良いのかそここのところの整理がつかないと、うまくいかないのではないかと、そのどこへ申し上げるべきかと言うことを抜きにして何を議論するのですか、どういう風に整理して行くのですか、というのが私としては今日までのところ、いくらか、じゃ我々のところに、市の中で社会教育に関係する施設とか、もろもろあまたあるんです。そういうふうなことを、どういう風に我々が見て、どういう風に方向を考えて行けば良いのか、その根底の部分の整理してみないと次に考えが行かないというところに突き当たってしまっています。じゃ、おまえは何をしてるんですかといわれたら、たかだか安土学区のまちづくり協議会の中の、運営者の一員、それもほんのはしぐれのところを担いながら、こうあれば良いんじゃないですか、そここのところでは意見を申し上げる機会もある。意見を出すチャンスはある。小さいまちづくり協議会という組織は手にとって解るわけですから。そういう風な段階に私自身としてはあるなあと、そのあたりから是非整理をやっていかなければいけないのですけれど、なにせこういう風に集まって部会を作っても、どこが事務局的に動いてやるんですかと言うことになると、なかなか心許ないところがある。一つお願いなんですけれど、教育委員会の事務局の方で、どうですかという声かけをですね、大変だろうけどやっていただきながら、やっていかないと、このままで行くとまた、なににもなしで時間だけ過ぎるのではないかと。という風な具合に、この命題をもらってから私なりに、誰とも意見交換してないから非常に偏った見方をしているところもあるうけれども、私なりに何か別もずーっとパソコンの中へ溜め込んで、又見ては溜め込んで、やってるんです。結局整理がつかない、まとまってこないというのが私の今日です。というようなことを申し上げて、大変ですけど、教育委員会の事務局の方から、ちょっとどうですかという風な、部

	会を進めて行く事務的な役割を是非お願いしたい。(53:13)
委員長：	実は、長浜も部会を進めるに当たっては、事務局の方にほとんど中心的な役割を果たしていただいております。いろんな交渉とか、視察する場合視察先への連絡とか全部事務局の方でやっていただいております。それに対して、部会の副会長さんが皆さんに発信されて、それでOKができれば実施していく。ということで、段取りはすべて事務局が長浜市もやっていただいているということです。ただ、すべてお任せではなく、こちらから、こういうのでどうですかと提案をさせていただいて、それを受けて事務局が中で検討いただいて、これは出来そうだとすることになれば、事務局の方で準備等していただける。こういうふうになれば良いのではないかと思います。もちろん事務局も大変ではございますが、こういう風にさせていただければわれわれも助かるのではないかと思います。(54:18)
三木：	さらに、今日私の頭にあるということを付け加えさせていただくと、近江八幡の中で社会教育に関わる施設というもの、あまた、そらんじていけないほどあるのですが、それぞれのところがそれぞれに社会教育の役割をそれぞれの切り口でやっていただいているのもよくわかるのです。だけど、それを統括的に、どこかが、なんらかの統括的に見るという視点が必要であるというときに、是非「中央公民館」というのが機能してくれる必要がないのかなあと、言うことを思うところです。これは、いや、そうじゃないという意見もあるかもしれませんが、私としては、中央公民館というのがいろんな社会教育の切り口の統括役という役割をはたしていただく、そういう風なシステムに教育委員さんに、社会教育委員はシステムの部分については申し上げる立場にないのかもしれませんが、教育委員さんの方からそういう考え方を一つまとめて、市の一つの大きいあり方の提案という風に、この考えが正しいかどうかは別として、そんなことを思っております。(56:13)
委員長：	ありがとうございます。
楠亀：	いいですか。
委員長：	どうぞ。(56:19)
楠亀：	社会教育といたら、せっかく近江八幡市の中に、生涯学習課という立派な課がある、それと、仕事を持っている人は仕事に時間をとられて、家に帰っても仕事のことが頭を離れない、リタイヤされた方が年々増えていく、生涯学習と言えば現役からリタイヤすると、リタイヤしてからあっちの方へ行くまで、如何に元気に、地域社会に自分の経験を活かして、皆さん方に、「教育」という言い方はなんですけど、「勉強」の場を拡大していく、高齢者になって、家で寝っ転がってテレビを見てるとか、昼間から酒を飲んでいるとか、こうして病院がよいになるといった環境を脱して、もうちょっと生き生きと、生涯、学習しながらという方向に目を向けさせるような方策を立てていくのが、生涯学習課のお仕事ではないかと思っています。そういうことと、この社会教育という、社会の中で教育するという非常に大きいことになるとは思いますけど、いずれ、生涯教育をするかされるか、自分自身で勉強するかといった違いだけだから、教育しなくても、生涯学習できるような場を作ってやるという雰囲気作りを町としてやって行けば、高齢者は昼間から酒飲んでごじゃごじゃしている暇はないのだと、好きなことがどこ行っても出来るような、そういうような町にしていかなくてはいけないのではないかと、何回もいい続けて来たのですが、なにかしら生涯学習課はいろんなことをやっていただけるような企画提案はなされない、本来ならばこういうところで、こういった方々に対して、こういった生涯学習をとか、こういう風にやっていった元気にさそうとか、年間の方針が出てきてそれに向かって我々が協力しながら、地域を細かくわけて、自分たちの担当地域の中で活動する。そういう中で、何か問題があったらこういう場で協議しながら補完し合うというような、もっと学習意欲のある生涯学習課になっていただいて、そういうことを地域に発信していただければ高齢者も変わっていくのではない

	かなあと、20年近くになるのですが、毎年高齢者に教育の場が設けられて、勉強会してもらって、僕が高齢者になって最初にさせていただいたときに、ここで勉強しただけではだめですよといって、グループで、二人居てたらグループやという意見出したんですね。グループがあれば、そこに人が集まって来る。今のおやじ連の1期生の人からつくりかけて、2期生・3期生・ついに出来て、あなた方一つずつのグループではだめよ、3つできたなら串刺しになってお互いに、1つのAというグループにも、屋内で活動するのが好きな人、屋外で活動するのが好きな人、いろんな人が居る。2期生にもいろんな人が居るということで、とにかく、グループごとに勉強しなさいと言ったことで今のおやじ連ができたわけですけど。こういうふうには、一部教育というか勉強する人は出来ているんですけど、そういった場がここに出来て良いんじゃないかと思うんです。それを、生涯学習課という課の1つの目標としていただいて、地域社会でもっと学習してください、勉強する場を持ちなさい、と発信していただけたら良いと思います。どんな感じかという、ひまわり館で社会福祉関係は毎年勉強会もって居られます。僕の立場で言って良いのかどうか解らないけど、もっともっと、今の福祉関係がやられていることを教育関係、生涯学習課で一端を担っていただいて、もう少し輪を広げてやっていけるような方向付けを持っていただければもっと膨らむのではないかと思います。(01:02:27) だから、あくまで生涯学習というのは生涯勉強を続けるという、勉強は教えられるのではなくて、自らが好きなことをやって、その人たちと仲間を組んで、生きがいを持たせていくと言うような地域作りを、生涯学習課で方針を立てていただいて、今ある輪をもっともっと大きな、違った目で生きがい感のある近江八幡にしていただけのような方策を生み出していきたいと思います。(01:03:11)
課長：	今のを激励として受け止めて、PR不足もあると思うのですが、様々な研修講座などもやらせていただいているのですが、発信する部分で、聞いた・学習したものがその後どういう風にネットワークしていくか、そういう風なものについても触れながらやっていきたいと思います。単なる学習するだけに終わらないようにと言うことだと思いますので。(01:03:35)
楠亀：	そうです、そういうフォローをしろと言われたら、いくらでも生涯学習課に協力する人はいますので、やらせていただきますけれど、なんか、ちょっと、なんか……すみませんどうも。(01:03:55)
委員長：	ありがとうございます。
明石：	すいません。沖島小学校の明石です。「学校と地域の連携・協働」の部会長でありながら、部会が開けておりません。申し訳ありません。今、お話がありましたけれども、明石が事務局に座らせていただいていた時に、教育委員さんに、市民大学講座や中央公民館講座について、いろいろ説明させてもらっていました。こういう講座がいろいろあるという話をさせてもらっている時に、川島教育委員さんの方から、市民大学講座と大学という名前になっているのに、そこに専門性が入っていないのではないかと言うようなご意見もいただきまして、それから大学の先生に年間5～6回程度、中央公民館講座についても、最初の料理教室とか、八幡堀の食べ歩きとか、クラフト作りと言ったものから、今年度も懐かしの名画座も定着していますし、生涯学習課さんとしましては、ものすごく講座の数も増やして、ポスターとかPRも十分されていると思います。参加された方なんかもホームページとかで発信されていますので、今課長が言いましたように、もう少し、さらに周知をして、参加していただいて、参加された方が「こんなの面白かったよ」と言うように広めていけるようなことがあれば、生涯学習課の取り組みもさらに充実していくのではないかと思います。(01:06:03) それから、部会のことについては、私が(生涯学習)課長をさせて貰ったときに、大橋委員長が提案されて、その年度(29年)に始めたと思っております。その後、

	30年・31年を経て、このような部会を置かれたときの経緯を思い出すと、委員長がおっしゃいましたように生涯学習課の方からいろんな提示があつて、それについて社会教育委員の皆さんが意見をというような会だったので、そうじゃなくて、社会教育委員さんの方がもう少し主体的に関わっていけないだろうかという面での提案だったと記憶していますので、部会長が、今年も8月に「学校と地域の連携・協働」部会の段取りをして貰っているときに、なかなか日程が合わなくて開けなかったんですけど、事務局にもお願いしながら、3学期には1回開かせていただきたいと思います。(01:07:31) 僕たちが主体的に関わっていけるような、ということでのこととは思うのですが、この「学校と地域の連携・協働」と言うことでしたら、今回アフガニスタンで中村医師が亡くなられましたけれど、中村さんが、そこに住む人からの信頼を得ることが一番ですとおっしゃっていました。水を引くこととか、医療とか学校を作ることとかよりもとおっしゃっていましたので、僕たち社会教育委員とかいろんな立場でいるものが、それぞれの活動をしている場所で、そこに居られる方々から信頼を得て、私たちが主体的になって行動を起こせるというのが一番大事じゃないかなと思っています。ここで、こういう議論・話し合いになって、終わってそのまま帰るのではなくて、そこで何かあったときに、じゃ次回こんな事としましょうとか、じゃ次回こんな事を私が提案しますのでそれに一緒に参加できる人はどうぞと、さっき吉井さんがお茶会を開くのでどうぞといったように、そういうことを広めて行けたら良いんじゃないかなと思います。(01:09:22)
委員長：	次の課題もございますけれど、なにかある方はどうぞご発言を。
城念：	すみません、部会についてですけれども、前から皆さん、それぞれ地域とかそれまでの経験で、本当にいろいろと肩書きもお持ちでそれぞれが違っておられて素晴らしいと思うのですが、1つのテーマを持っていくと、それぞれの考え方が、ベースが違うので、学習という部分では先ほどの委員さんもおっしゃってましたように、生涯学習課であるとか、まちづくり支援課(＝まちづくり協働課)とか教育委員会とか、関わっておられる、その方々の庁舎内での連携も含めて、きちっと下地を学んで、それから次の段階に行かないと、今実際、たとえば私たちは、「コミュニティセンターと社会教育」という部会で、普通の雑談はするのですが、なかなか答えに至ってません。「学校と地域の連携・協働」にしても「コミュニティセンターと社会教育」にしても最終目的は、子どもたちも含め地域が良くなるようにと言うことですので、目標は一緒なんですけど、いろんなものが絡み合っていて、たとえば、コミュニティセンターは昔の公民館と同じなんですけど、建物の名前で、中にはまち協さんがあって、その中には事業があって、事業は、総務省のやってる本当の、防災であるとかのまちづくりの部分と生涯学習の部分、生涯学習課が関わっている部分が予算のほんの少力で、どうするんやと言うくらいのお金で苦労しながらやっておられるのは重々解っているのですが、ただ、私も昔に公民館に関わっていて、本当に皆さんきらきら輝いて、たくさんの方が寄っていただいていた時代とは違って、何か見えてこない部分があったりして、私自身も距離を置いている部分もあったりするので、そのコミュニティセンターも、いくつもあって、島学区もそうですけど、きらきら輝いているのですが、報告書見てこんなやっ居るんやなあと言うだけのことで、年間通して発表会もありますし、それらを網羅してこんなに八幡はそれぞれの地区で頑張っているんですよ、その中に生涯学習の部分もあるし、防災の部分もあるし、人権の部分もあるしという、なんかコンパクトにでも、何人かでもそれを少しずつ解って、それを評価し合えるようになって、頑張っているところはもっと頑張ったら良いし、そこはもうちょっとこういった形の方が良いかなあとか、それぞれ関わっている職員さんを、また、それを応援しているそれぞれの委員さんとかも、何か、たとえ小さな規模でもそれが、そこにいらっしゃる方が共感されて、次に一歩こういう風に進めることが出来れば、庁舎内の今の状況も、なんとなくはそれぞれ皆さんご存じでしょうけど、なかなか数字に弱かったり、その時にあつ、そんなもんやなあと思ひながら、時間がたつと忘れてしま

	うので、ちょっと簡単な、このような形でコミュニティセンターのまち協さんの事業が、まちづくり支援（協働）課と生涯学習課と他の課もあると思うんですけど、こんな風にやってらっしゃって、ちょっとここが問題だとかという部分を、なんとなく、8割ぐらい、例えば、皆さんが共通認識で、地域のこともなかなか細かな隅々のことまではわかりにくいと思いますが、特徴的なところを学びながら、その中で、どう言うような形が望ましい、そのなかで、中央公民館、中央の「公民館」の名前が残っているのは私はうれしいんですけど、形骸化され、ご苦労されている部分もあるので、いろんな、今も明石先生がおっしゃったように、努力されたことが、学んだことが活かされて、おもしろかったね、良かったねと皆さんがニコニコと、頑張ろうと皆さんの手が繋がっていけば良いので、究極は、庁舎内の連携と、その中身をもう少しわかりやすく、委員の私たちに資料提示して貰って、あと、それぞれの各コミセンの情報を、こんなに素晴らしい活動をしているところがあれば、そこら辺を抽出しながら、そこへ寄せて貰ったりしながら、そんなに一度に答えが出せるものでもありませんし、実際に行ってみてとか、なにも、「知的」とかでなくて、どうしたら良いのかなあという目線で、地域を皆さんが同じ目線で見ると言うことがすごく大事だと思いましたので、是非そういう機会があれば、長い目で答えを出して行くというように、今日ここへ出席するのも、宿題が出来ていない子どものような気持ちで、どう言うようなことになるのかという思いを持ちながら寄せて貰ったのですが、ちょっとそう言うような方向で時間をかけて、学んでいきながら進めるのはどうかと思っています。（01：15：22）
委員長：	はい。事務局のお仕事がたくさん増えると思いますけれど、要になっていただくという役割が事務局に求められると思いますので、特に庁内での連携については、中の人しかわからないものですから、是非そう言った部分では汗をかいていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。（01：15：49） 次の課題がございますので、もしご意見等ございましたら次の課題の中でお願いします。 次の協議事項は、次第の2の（2）に入らせていただきます。 はじめに、今回の懇談の開催について、事務局から目的等ご説明ください。（01：16：14）
課長：	教育委員さんとの懇談については、5年前の平成27年3月3日（火）に島コミュニティセンターで開催された、平成26年度社会教育委員・公民館運営審議会委員会議に、教育委員の皆様が、「出前教育委員会」として参加され、懇談が行われたことがあります。以来、お互いにその機会を望む声はありましたが、なかなか実現には至りませんでした。 すでに、前回懇談に参加された教育委員の皆様は、日岡教育長以外は全員お変わりになられ、今後につなげるためにも是非一度懇談を、とのご意見もあり今回の開催に至りました。しかし、やはりお忙しい皆様のことでありますので、全員にお揃いいただくことはむずかしく、今回も肝心の教育長が市議会のため出席いただけない状況です。教育長からは、日程の設定に問題があるとのことご注意をいただきましたが、第2回目の本会議の開催の日程が、予定よりおくれ、このままでは年を越してしまうことから、やむなくのことである旨説明させていただいた次第です。（01：17：51） このような機会は、本市の「教育」を考える上で、今回だけでなく今後も持たせていただきたく思っており、きっかけ作りとなることを期待しての開催である点をお含みいただきたく存じます。 ご承知おきの通り、教育委員の皆様は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、また、社会教育委員・公民館運営審議会委員は、その教育委員の組織する会によって委嘱される旨「社会教育法」に、定められております（詳細はお配

	りした資料にございますが)。つまり、社会教育委員・公民館運営審議会委員の皆様は、教育委員の皆様より委嘱されてこの任に当たられているわけで、皆様方が一堂に会され、意見交換をなされる機会がない方がむしろ問題ではないかと考えております。 とは申しまして、本日はあくまで「懇談」ということで、今後の連携のあり方を含め、皆様方のお考えを話していただければと思います。(01:18:56)
委員長：	ありがとうございます。ただ今事務局から、懇談会の持ち方について説明がございましたけれど、この件について何かご質問等はございますでしょうか。(01:19:08) ございませんか。ないようでしたら、それでは、何について意見交換頂かと言うことになりますが、それについてなにかご要望とかございませんか。 先ほど私が申し上げた、コミュニティスクールは今後の大きな課題となると思いますので、1つの柱にしたいと思うのですが、他に何かございませんか。 では、まずコミュニティスクールに関して教育委員さんとの意見交換をしたいと思います。もし、ご意見等ございましたらお願いしたいと存じますが、先ほど申しましたけれど、コミュニティスクールにつきましては、法の改正によって、努力義務化されました。(01:20:15) そのあたりの1つの大きなポイントとして、先ほど申しましたけれど、地域学校協働活動推進員という方を、教育委員会が委嘱することになりました。この推進員の方はどういう役割なのかと言いますと、地域と学校を繋ぐコーディネーターの役割をしていただくという位置づけになっております。具体的には、地域住民と学校との情報共有とか、地域住民等への助言等というのが、この地域学校協働活動推進員さんの役割と言うことになります。この方が学校運営協議会の委員にもなることが出来るというようになっています。今までは、コーディネーターとか地域住民の方が、学校運営協議会のメンバーになっていらっしゃいましたが、今後は推進員の皆さんもメンバーになれます。こういう法改正がされています。この推進員さんは、教育委員会が委嘱することになりますが、予算が発生します。そういうことも含めまして、教育委員会として、これを制度化されるのか、あるいはされていらっしゃるのか、それから、そうじゃなくて、学校の個別事情等ございますので、学校ごとに対応されて行かれるのか、私としては気になるところでありまして、長浜市はすでにずっと前からコミュニティスクールはされていますが近江八幡市さんは・・・それが今 I N G ですね。
課長：	6つですね。
委員長：	進行中ですね。
課長：	進行中です。(01:22:29)
委員長：	そういう中で、これを制度化されるのか、あるいはここの学校の実情に応じてこういった委員さんを委嘱されるのか、そのあたり教育委員会としてはどうなのかというところが私自身関心がありまして、現段階での教育委員会の方針と言いますか、それについてご意見等聞かせていただければありがたいと思います。(01:22:

課長：	58) 今の流れで言いますと、令和3年までに、市内の幼稚園・小学校・中学校に学校運営協議会を設置して、コミュニティスクール化するという流れで進めています。一番最初市内では、老蘇小学校がモデル校と言うことで2年前にコミュニティスクールを立ち上げていただいて、その後、今年新たに5校園、幼稚園1つに小学校3つ、中学校1つという形で、順次今年、来年、再来年という形で取り組んでいくというところです。ただ、委員長おっしゃたようにそれぞれの学校の実情もありますので、それぞれの学校の実情に合った形で進めていただこうと言うことを思っております。国全体としては、委員さんの数も特に何人ということはないのですが、先ほど言われました予算の関係もあって、近江八幡市としては10名を基準にということで設置を行っているところです。(01:23:57) まだまだ浸透していませんので、そのための研修の機会を、県としてもあげていきますので、そういう研修会にこれから設置していこうとしているところなどにも、参加を呼びかけさせていただいて、いろんな方に学んでいただいているというところです。つい先だっても、近江八幡市のひまわり館を会場に、コミュニティスクール設置に向けての研修会があったのですが、島学区さんの方からは3名、学校以外の方が興味を持ってきてくださってましたので、それぞれに、じわっと言う感じで広がって行っておるのかなあと思っています。(01:24:38)
委員長：	私、個人的には、先ほど言いましたけれど、社会教育委員さんせっかくいらっしゃって、しかも各地域でそれぞれ活動していらっしゃる。出来ればこういう活動をきちっとしておられる社会教育委員さんの中から推進員さんをと私は思うのです。個人的な思いですけど、そういうことも考えますと、ここで、学校教育との連携というものが進んでいくのではないかと考えておりまして、そういうことも含めて、教育委員の皆様がどうお考えになっているかお聞きしたいのですけれど。(01:25:22) どうでしょう、教育委員さんとしては、特にこの件に関して議論等されておられるのでしょうか。(01:25:40)
課長：	まだ、十分に浸透仕切れていない部分があります。教育委員さんの方にも流れとかはお知らせさせて貰っているのですが、実態として、これまでとの違い、これまでは学校運営評議会の方で、学校がどういう風な活動をしてきたのかというのを評価するというのが、1年間通して、目標を持って、それがどうだったかというのを評価して貰うのが学校運営評議員の皆さんのお役目だったのですが、これからは共に作っていこうということで、例えば、会議なんかでも、交通マナーとか中学校ではよくでるのですが、交通ルール守られてないし、マナーも良くないから、先生頼むで一と地域の方から言われる、先生頼むやなくて、自分たちの地域の子だということで、出来る範囲から声かけられるところは声かけて行こうという、こう言う意識を地域の人に持っていただくという、そのためにはどうしていこうかと言ったことを議題に挙げていただく、自分たちの幼稚園・小学校・中学校なんだという意識を地域の方に持っていただくというためのものを、これから浸透させていこ

委員長：	うという段階ですので、立ち上げる学校が何校かありますけど、そこでもやっぱり紆余曲折というのか、改善をしていきながらどうやって言ったら良いのかと言うことを、まだスタートの段階ですので・・・（０１：２７：０４） 前回、平成２７年の意見交換回では、学校支援地域本部事業、それと、家庭教育支援基盤整備事業ですか、これについて発表していただいてそれについて意見交換をさせていただいたと思っているのですが、今回も意見交換させていただくのなら、そういう風な大きな事業・テーマでと思っておったのですが、皆様方から他に何か、この懇談会をもっと活発にするようなテーマはございませんか。（０１：２７：５２）
明石：	学校現場の方から（の発言です）。近江八幡市は、先ほど、課長が言いましたように、確か平成２９年に老蘇小学校がモデル校として導入されました。それは、老蘇小学校がかなり地域の方の支援を受けながら学校運営をしているという基盤があったということで、老蘇小学校で１校目スタートしまして、今は、その後５校が入ってきました。村北さんがおっしゃっていた評議会ですね、沖島小学校でも評議会を開いたのですが、その評議会が今回学校運営協議会に変わって行きますよという話をしたときに、責任が重くなるんやなあと、その評議会の方は、教育委員会から委嘱状がでますよ、それから一回の会議についていくらかの謝礼が出ますよ、ということをお話させて貰ったときに、その謝礼をいただくと言うことは責任が重くなるということやなあと、というようなことを言っておられました。で、うちも１０名程度評議員をして貰っているのですが、来年度それを、コミュニティスクールに、皆さんにこう言う制度ですというのをもう少し広くお知らせして、令和３年度に学校運営協議会のコミュニティスクールに変える予定をしています。評議会から学校運営協議会に変わることによって、３つの大きなポイントがありまして、今までは校長が学校運営について評議会に報告をしていたわけですけど、それを、この学校運営協議会が承認する、要するに、学校運営方針にしても、地域の皆さんで盛り上げていきたいと思いますというのが一つあります。それから、学校運営に対して、教育委員会に、運営協議会が、このようなことをうちの学校では頑張りたいというような意見を述べる事が出来るようになります。最後に、教職員の任用等についても、例えば今島小学校さんは英語に非常に力を入れているのですが、うちの学校では英語教育に力を入れていくので、英語の力を持っている先生方に来ていただけたらうれしいなあと、そのような意見を述べる事が出来るというような、三つの新たな権限と言いますか、このようなことが含まれるようになります。皆様の住んでおられるそれぞれの地域で、近江八幡市は令和３年度に導入する方針を持っていますので、大橋委員長がおっしゃいましたように、出来れば学校運営協議会委員に皆さん方がなられて、その地域の学校を盛り上げて行けるように、その部分を支えるようになって行ければ事務局の方も喜ばれると思うのです。（０１：３２：０１）
村北：	私なんかは、僭越ですけど、今おっしゃったコミュニティスクールの委員の一人ですよ、当て職と言ったら当て職かもしれないですけど、まちづくり協議会の会長というようなことをお願いしますというようなことなのか、わかりませんが、その辺のところは野瀬次長の方がよくご存じでしょうけど、前職は島小学校の教頭

次長：	でしたので・・・、すでに何回か開かれていて、今、先生がおっしゃってくださったそのような形で、様子で進めます。（０１：３２：５５） 島小学校は、村北さんがおっしゃったように、立地が良くて、学校とコミセンが隣り合わせで、常に、毎日顔を合わせて声を交わせるので、同じ子どもたちをみんなで見育てているという環境があります。学校の行事にどんどんまちづくり協議会の方も入っていただきますし、私たち（教員）も夏休みに開かれているものには顔見せにちょっと参加させて貰ったりというような関係が常に出来る形です。コミュニティスクールについても、本当に自然な形で持つことが出来て、今まで通り学習支援から環境整備、子どもたちの安全パトロールとか、いろんな面で常にご指導・ご支援をいただいております。明石校長も言われたように、学校の方針・ビジョンと一緒に共有していただいて、学校が頼むというよりは、共に子どもを育てるということで、老蘇小でも進めておられると思います。 学校教育側としましては、とにかく学校が開かれるということが、来年次の指導要領が正式に小学校でスタートしますが、一番は「開かれた学校」です。社会に子どもが出るときに、学校だけで閉ざされていれば、これから子どもたちに力がつかないと言うことで、 一緒に、どんどん参画していただいて、学校運営をしていこうと言うことですので、まずは学校にどんどん入っていただくことが大事なあと、昔の学校はなかなか入りにくさがあったかもしれませんが、今はものすごくウエルカムでしておりますし、ご支援もいただいておりますし、どんどん入っていただけたらと思います。教育委員会の方も、所管課は学校教育課ではないのですが、月一回定例教育委員会をさせて貰って、多くの議案があるので、なかなか一からというのは難しいのですが、こちら側（事務局）でコンパクトにしたものでご協議いただいたり、議決をいただいておりますが、「出前教育委員会」といって、いろいろな学校現場とか施設等にも出向いて、社会教育のことも見ていただいておりますし、学校教育の現場も見ていただいております。例えば、教員の働き方改革だったり、老蘇小にコミュニティスクールを見に行かせて貰ったりとか、という形でご意見をいただいているというのが現状でございます。（０１：３５：４８）
村北：	あっ、それと委員長、もう一点。今度、年が変わって、１月の中頃に各学区のまちづくり協議会の代表者が集まって意見交換会をする予定があるのですが、桐原をそこでこの委員会の目的である社会教育とか、あるいは公民館運営とかということについて、代表の２学区さんが、こういったことに関して何かを発表されるのですが、それは、２学区ずつ順番にということになっているのですが、同じようなことをやっても面白くないというような事に途中でなって、年数が加わるごとにそういう意見も出たりして、途中で色が変わってみたりもするのですが、またもとにもどろうとかいいうことで、議題は年々にいろいろあるんですけど、そういった会が開催されますので、１月の２１日やったと思いますけど、こういったことについて、うちの地域はとか、うちの学区はとか、こういうことをしてるよとか、こう言う取り組みをして社会教育に貢献しているといった、あるいは、こういう風にしようと思ってるとか、（意見が）出ると思いますので、私はそれが大事じゃないかと思うんです。私もそういう中に参席をさせてもらってますので、又こう言う委員会

	の時に、少し前のことになりますけれどもという注釈はつくかもしれませんが、こんな意見があったと、各学区は、近江八幡市全体ですので、そういうところでこういったことを発言するのもいいなあと思ったりもしています。(01:38:21)
委員長：	ありがとうございます。よろしく、です。
村北：	よろしくと、たのまれても、背負いかねますけれど・・・・(01:38:30)
楠亀：	今のお話を聞いていても、どうしても学校を中心とした、学校に関係のある人たちの社会教育というか、学校教育を中心とした社会教育になっている。本来ここに居る社会教育委員は、そういうところから外れた人もたくさん居ると思うのですが、そういう方たちをいかに健康にしながら、元気で長く生活できるか、楽しく過ごせるか、そういったことを見直して、地域社会に反映させていくのが社会教育ではないかと思います。学校教育がずっと話題に出ているのですが、そこから外れた方々を、社会としてどういう形で元気な町を作っていくかということの協議をするのがこの場ではないかと思っているのですが、違うんでしょうか。いつも学校教育の方に行くんですが、教育教育言って。(01:39:40)
委員長：	今回は、教育委員さんがお見えになってらっしゃいますので、わざと話題を絞って議論していただいているということなんです。本当はコミュニティの方もやりたいのですが、今日は教育委員さんがお見えですので、そちらの方を中心にお話をさせて貰っているんです。学校教育も社会教育の一環だと思っていますし、学校教育だけでは成り立たないといいますが、いろんな事例を見ればとても学校だけでは対応できない、地域あるいは行政、事業所等いろんな方々の関わりがあって学校教育というのは成り立っている、今後、そのウエイトはますます高まっていくと思いますので、そういうことから考えますと、学校教育も、社会教育の一部だと、それが中心ではないですけど、一部だと考えるのが普通だと私は思っています。今日はせっかく(教育委員さんが)お見えですので、そちらの方に絞って、限られた時間でするので、その方向で議論を・・・(01:40:43)
楠亀：	教育委員という方は、学校教育に力を入れたら良い委員さんなんですか。近江八幡そのものの教育委員会という立場でたてば、こういう人にもこう言う教育をしなければと言う、地域社会での教育力を上げなければならないという立場で関わるのが教育委員さんではないのですか。学校教育だけを教育委員で話するのだったら、その関係者だけで話されたら良いんですね。社会教育委員としてという立場で出てこられるんだったら、学校教育を教育委員の立場で社会を見た場合に、高齢者を含む、こういった生き生きしたまちづくりをしようではないかというのを議論するのがこの社会教育委員の会議じゃないかなあと僕は思っています。(01:41:42)
委員長：	会議はそうなんですけど、今日は、通常の会議と、それから、教育委員さんがお見えですので、それとは別に・・・・
楠亀：	教育委員さんも社会教育委員であればね、教育委員という立場から社会教育とい

	うものをもっともっと、あんた方は知らんけど、学校の教員はこう言う立場で教育しているとか、地域社会でもそういうところを反映させてもっと活発に、生き生きしたまちづくりをしたらどうですかという意見をいただくために今日お見えになってるんですよね。教育だけじゃなくて社会教育委員でしょ、ここ。(01:42:22)
松岡：	今日来てはるのは、お二人は教育委員ですよ、
楠亀：	ああそうです。解ってます。
松岡：	そやから、社会教育委員ではないのですよ。それを今、こう言う話をしているのは、教育委員がお見えだから、学校教育について特化して話しましょうと、いう風に話題を・・・
楠亀：	いやいや、僕が考えたのは、社会教育委員やから、地域社会、近江八幡の社会として、教育するというのは、高齢者もたくさんいはる、高齢者の人口が増える。というところに関して、教育委員の立場で、学校ではこういうような教育をやってますという中で、地域社会の全然組織力のないところで、もっと生き生きしたような高齢者にする仕組み作りをこの場でご意見いただけるのかと思っていた。だから、社会教育だろうが教育委員であろうが誰であろうが、ここに集まったものは、近江八幡そのもののが高齢社会になりつつある中で、元気な高齢者をつくために、どういう風にしたら良いのかと言うことを、いろんな立場から意見交換しながら、そういう町を作っていくという風な社会教育委員会ではないのかと思って僕は話させて貰っているんです。だからここでは学校教育だけに・・・(01:43:56)
福井：	<<話が混乱し、委員長が論点がそれている点に注意、他の委員も制するが、収まらず、福井委員が割って入って話し始める。>> (01:44:00) 僕も先ほど言いましたように、2期目かたしか3期目ですけど、以前、先ほど島学区のまちづくりの代表の方に意見貰って、だんだん層も広まってきて、今日は教育委員さんの立場で来ていただいているし、今までなかったことですが、そういう機会を出来るだけ持っていて、持ち帰ってまちづくり協議会で寄る機会があるので、皆さんの意見を反映できるようにと、各団体で、僕らも何かの団体で出てますので、また意見聞かせていただいて、お互い反省することもあるし、いろんな意見を聞かせていただいた中で、各団体のためになるのであれば、という風に思いますので、先ほどセンター長とまちづくりの違いで、センター長はあくまでも施設を守るための人件費を貰っているだけで、まち協の中身は関係ないと、センター長自らがそのように受け止められている方もあるし、けど、僕らがやっていることは施設やなしに、まちづくりのためにやっている、人民のため、市民のためにやっているということで、僕も考え方を変えな、コミュニティセンターというのはまた違うものだというふうに勉強もさせて貰っていますので、また、いろんな形で意見を述べさせて貰うかもしれませんが、いろんな意見を聞かせていただいて、団体の繁栄のためにやらせて貰いたいと思いますので、よろしくお願いします。(01:4

	5 : 4 3)
中野 :	すいません、いいですか。
委員長 :	はいどうぞ。(0 1 : 4 5 : 4 5)
中野 :	いろいろ議論を聞いていて解らなくなっただのですけど、教育委員会というのは、「教育」で、上に「学校」とも「社会」とも付いていませんけれど、私が思っていたのは学校教育課の中にあるんじゃないかな、学校教育課の上か、全体の教育と言うより学校教育に関わっている部分が多いのかなあと、今までそう思っていました。それで、コミュニティスクールというのは、スクールって付いているからには、学校教育にどちらかと言えば重点が置かれていて、そこに、コミュニティとの関係を如何に十分につけて行くか、それをどういう風に一緒に考えながら、学校をよりよいものに、次代を担う子どもたちを、そのコミュニティの良さを取り込みながら育てて行くものだろうと、それを強調してコミュニティスクールと言うんだらうという風に思ってたんですけど、これはもう一つの方法としては、学校に足を、この教育委員会の人の10人の選考の中で、学校に足を置く人と、それから、いわゆる社会教育ですね、コミュニティの方の教育に足を置く人とを、うまくあわせて選んでいただいて、コミュニティスクールを、コミュニティスクールというのが上から来てるのしょうけど、コミュニティスクールとして運営する場合にあまりに学校運営だけじゃなくて、社会教育の方を如何に取り込むかと言うことを、重点をこちらにもふって考えて行けば、うまくいくんじゃないかと思っています。それで、うちの孫が島小学校に、元は八幡学区なんですけど島小学校に行かせていただいているんですけど、 自然もいっぱい、いろんなものがあるものですから、住民の方も出ていただいて、山に登ったり、その他いろんな事をしたりというのが割合あるんです。このところに、土田町は老人会は動いてないようですけど、私土田町に住んでいるんですけど、島だったら老人会も動いていると思いますので、老人会のメンバーなんかも入っていただけて、老人会としては子どもの教育にこう関われるよ、とか婦人会としてはこう関われるよ、というようなことを、社会教育、他のことをやっておられる方もあるので、その方たちのそういう社会教育分野に全体から見れば属するような方々も、ここに入って貰って、そして、コミュニティスクールと入ってますけど、コミュニティの教育を考えるという風に持って行けたら、一番良いんじゃないかなあと、聞きながら思ったんですけど。(0 1 : 4 9 : 4 9)
楠亀 :	いいですか。
委員長 :	どうぞ。
楠亀 :	学校教育とか、コミセン関係に足を運んでいる方達は、放っておいても自分の行き場所があるから前を向いておられると思うんです。社会教育というのが何かと言うことで、僕が考えているのは、高齢者になって行くところがないという、そういう方はおうちに居られる。そういう人たちを表に引っ張り出し、元気な近江八幡を作

	りましょうということに眼点をおいて、社会教育という立場で、みんなの力で生き 生きした社会を作り出して行こうという企てをやっていく会議じゃないかと、はじ めから思っているわけです。学校教育は学校の先生に任せておけば良いんですよ。 学校の先生が必要と思えば地域社会の人に目を向けて、学校でこう言うことをしよ うと思っているけれど、そういうことに長けた人は居ませんか、地域コーディネ ーターというのを僕もやらせて貰ってましたけど、そうした方達を地域から学校へ 繋いで、そこで教育が受けられれば、おじいちゃんおばあちゃんがこう言うことを 言っておられたというので、学校でまた生き生きしてくる。生徒も帰ってきて地域 の人にこんな経験させて貰ったと言って生き生きする。一部の人はもうそういうこ とが出来ている。ところが、孫はもういない、学校行ってる人もいない、学校のニ ュースも全然届かないという人高齢者たちがたくさんいる。社会教育というのは、 そういう世界におられる方をいかに地域社会に引っ張り出してきて、地域を生き活 きさせるかと言うこと、そういうすべを考えて社会教育をやって行こうというのが、 生涯学習課であり、社会教育という命題をもらって、いろんな人と地域を生き活 きさせていく、その方策を考えるのが、この社会教育委員会じゃないかなあと、僕は そういうつもりでずっと聞いてたんです。そういうのはなかなかない、どうしても 学校教育だとかそういうとこのお話になってる。僕ら、ここにいたら異質な人間み たいな感じで、我々の職場のインストラクターの会でも、出来ること、いろいろ違 うことの出来ることを持っている。それを、持っているけれど家にいたのでは活 かせないけど、活動の場がない、そういうものを出して行って、方々から声がかかっ て、自分の得意とするところ、いろんな分野で、子どもさん達とお話ししたり、高 齢者のところで歌歌ったり、ゲームしたりとか、お話ししたりと、いろんなことで 盛り上げていくと言うこと、これが社会教育じゃあないかなあと、そういう意見交 換の場にならなあいのかと・・・、(01:53:28)
中野：	いや、私は・・・、社会教育委員さんの協議の時はそれなんですけど。そこで 思っていることを、コミュニティスクールの中にこう取り入れて下さい、というこ とを言うんじゃないですか。だからその、今、・・・(01:53:52)
楠亀：	いやいや、・・・
中野：	楠亀さんが言っておられるようなことがあるので、これをどういような形でコ ミュニティスクールの中に、今日は、教育委員会の方が来ておられるので、教育委 員会というのは学校教育にある程度シフトしていると思うんですよ・・・、もともと は、(01:54:13)
次長：	あのう・・・、どうしても、教育というと、学校教育と言うことで、議会でも学校 教育課への質問が多くなるのですが、本来は、教育委員会は、おっしゃるように、 図書館もあれば、生涯スポーツ課もあれば、生涯学習課もあるので、ゼロ歳から高 齢者の方までの教育を担うのが教育委員会だと思いますが、今日はコミュニティス クールということで、委員長がいつていただいたので、学校にシフトしたお話にな ったと思いますけれど、本来はすべての人の教育について考えていく場で・・・・ (01:54:53)

楠 亀：	僕は、教育委員として、教育委員の立場で地域社会の人々に、こう言う教育を与えたら良いですよ、ということをお話する場じゃないかと思って聞いてたんですけど・・・
村 北：	だから、楠亀さん、委員長が我々に投げかけはったことをもう少し分析して貰ったら、何度にもなりますけど、今日は、コミュニティスクールに特化してやりましょう、という題材を投げかけられたのだから、それに対して我々は、議長の投げかけに対して我々は、意見を言っているだけです。今、楠亀さんが言われるような、そのような意見は僕らもたくさん持っています。社会教育全体に対する意見はね。だから、何でも良いからいってくださいと言うことであれば、楠亀さんの意見は良いんですけど、今の残りの時間は、こういうことに特化してやりたいと思いますという委員長の発言でしたので、それを我々もくんで発言をしているわけですから、大きな柱は楠亀さんのご意見は全く正しいですよ。ですから、そこまで今日は突っ込まなくても、委員長のご指示通り、コミュニティスクールに関してということに関する話に重きが置かれているだけで、違いますか。(01:56:34)
楠 亀：	違います。コミュニティセンターと社会教育と書いてある。
村 北：	違いますやろ、書いてあるのはそうだけど。話の題目が、委員長が投げかけられた事がこうやというているわけですよ、わかります。
楠 亀：	わかりました。(01:56:54)
委員長：	どうも、・・・・
村 北：	皆さんそうでしょう？
中 野：	そうです。(01:57:04)
吉 井：	楠亀さんの言われることはよくわかります。けど、いまは、この場はその話ではない。(01:57:14)
委員長：	私の説明の仕方がおかしかったかもしれませんが、前半は社会教育委員としての皆様方のご意見を、後半は教育委員の皆さんがお見えですので、特に問題になっているコミュニティスクールについて、社会教育委員としてどう関われるか、それについて教育委員としてどう思っているのか、ご意見を伺いたいと・・・
楠 亀：	すみません、私が間違ってます・・・。(01:57:48)
委員長：	本来的にはもっと全般的に議論できれば良いのですが時間に限りがありますので、それについては機会があればご議論していただければと思います。今日はそういう形で特化して・・・、では、教育委員さんからご発言いただければ有りがたい

久家：	のですけれど。(01:58:13) みなさんいろいろ地域でいろんなことをしてくださっているのです、今言われたように、コミュニティスクールになることによって、今の子どもはいろんな子どもがいて先生だけでは育てていけない、まず親が言っても聞かない、そういう場合に地域の方に、いろんなことを教えていただいて、いろんな方とふれあって、多様な方面から教えていただいて、関わることで、子どもたちもこれからの社会に柔軟に生きていける。そういう子が少しでも育っていいのではないかという風に私は思っています。皆さんのいろいろな知識とか、いろんな特技とか、そういう面でいっぱい、子どもたちに関わっていただけると有りがたいと思います。(01:59:45)
村北：	我々も、今おっしゃった、その通りなんです。地域の子どもたちは、もちろん不満もあるでしょうけど、親の言うことを聞くか聞かないかは知りませんが、地域の「あのおっさんの言うこととやらしたらしゃーないなあ」とか、「あのおばさんが言うこととやらしたらしゃーないなあ」とか、言うような、最終的にそこの答えを導き出すのに、日頃の、地域の子どもたちとのコミュニケーションが、非常に大事になってくる。そこで、島なんかでは、特に小さい学区でそういうところがやり易いかもしれないけど、ガンガン学校行事にも入っていき、あるいは、学校からまち協のコミュニティ行事にも入って貰い、そして、島小学校サポート隊、どこでもあるかもしれませんが、サポート隊なんかも作って、おばちゃん、おっちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんの顔をそれなりにしってもらうとか、言うようなこと。そして、さっき次長がおっしゃったように、山登りについていくとか、さっき紹介してくださったけど、それ全部若い人とは限らない、すでに老人クラブにはっている方々が一生懸命になってやってくれはる。事によっては、そういうこともあるわけです。そういう地域との繋がり、あるいは、子どもたちにとっては、顔を合わせて出会う回数を増やす、といったことを大事にしていきたいと思っています。もちろん、各学区には、スクールガードとか、いろいろあるんでしょうけど、それだけと違って、日頃の、お互いの、まち協も小学校も、お互いのそれぞれの活動を、独自ではなしに、その中にも入れていって貰おうと、言うような理解を得てるものですから、そういう繋がりでもって、進めていくことが大事だと、我々は確信を持ってそう思っています。(02:02:24)
委員長：	ご苦労様です。
中野：	次、いいですか？
委員長：	はいどうぞ。
中野：	楠亀さんが言われてる老人というのは、出て行けない人をすごく意識してらっしゃると思うんです。私も、自分はまだ元気ですから出られますけれど、やはり近所には出られない方もおられますし、この方たちは、ほとんどの方が、週に2・3回とかデイに行ってらっしゃいます。デイとか、そういう所は来ていただけないので、そういう方もコミュニティの一員ですから、もちろんそう言うことも考えていた

	いてると思うのですが、そういう所に出かけて行って、そして、こういうおじいちゃん、おばあちゃんは、そういう人もここにいるのだなあと、この頃は地震とか何か話題になってますから、ああいう人も、ここら辺には、ある程度昼間にはかたまっておられるわけですから、そういうのもしておられるのだと言うことは、たぶん家の孫たちもわかってないと思うんです。私は元気ですし、夫もまだ平気ですから。だから、そういう事も引くくめて、コミュニティスクールの中で、いかせていただけたら・・・、この頃近所ではお葬式ありませんから、そういう存在というのはすごく薄くなってますよね。(02:04:08)
村北：	そこでね、一つ我々が考えたのは、楠亀さんがおっしゃった、社会教育とか全般に渡ってのことでしょうという、やはり地域の高齢者を対象に、どなたでも良いんですけど、買い物支援のサポートをやろうと言うことで、動けない人に配達するのではなく、大きな目的は、その方を、サポートさんと一緒でも良いから、コミュニティセンターに、言葉は悪いですが、引っ張りだそうと、そこで、5分でも10分でも我々としゃべって貰おうと、いうことを大きな目標として、取りに来て下さい、コミュニティセンターまでは業者が持ってくるから、原則は配達はしません、そこに取りに来て貰うということにして、商品を取りに来て貰うことで、玄関に椅子がありますから、そこに座って、品物をチェックして、お金を払うという間が何分か、10分ぐらいはあるのですが、そこに、まち協の、コミセンの職員は出て行って、おじちゃんでも、おばあちゃんでもよろしいけど、「今日も元気に取りに来たなあ」としゃべるということを、大きな目的にしてやってる事業もあります。今の、この時期やったら、一つのサークルが、クリスマスに向けてか、年末に向けて、というような大きな題目で、手作りのものを作って、地域の70歳以上のお年寄りに個別配達をしてあげる、ものすごい件数ですけど、来年はねずみ年ですからねずみの置物を手作りで作って、そして訪問して、「これ作ったからどっか置いといて」と、「今年も1年元気やったかあ」といったことをしゃべったりして、それは宅配で、島学区全域で75歳以上の人に配ってくれてはるのです。そういうこととか、先ほど申し上げたように、わざと手足を使って、運動のためにもなるし、来て貰うことも一つ、来て貰うことによって、コミュニティセンターという会館をみて、「地震やとか土砂崩れが起こったときにはなあ、ここに連れてきて貰うねんで」、ということもしゃべったりすると、防災にも繋がるわけです。そういうことをやっているんです。子どもたちだけじゃなくて・・・。(02:07:23)
委員長：	西田教育委員さん何かございましたら。
西田：	今日はありがとうございます。コミュニティスクールなんですけど、久家委員もおっしゃいましたが、今の子どもたちというと、スマホが好きで、時間があればユーチューブを見ているというような子どもたちが結構いると思うんですけど、私が小さいときどうであったかと言うことを思い浮かべますと、近所の雷おやじがいながらも、その人に遊びを教えて貰ったりとか、近所のおばあちゃんに綾取りの上手なおばあちゃんがいたら、その人が中心になって、近くの女の子を集めて綾取りを教えていたり、そういった懐かしい思い出があるんですけど、この、コミュニティスクールに関しても、そういった経験豊富な、技術を持ったお年寄りですとかご

	近所の方が、いろんな子どもたちに教える場になって行ってくれるとうれしいなあと思います。(02:08:40)
委員長：	ありがとうございます。重野さんどうぞ。
重野：	希望なんですけど、村北委員はコミュニティスクールに関してもうまくお話しなさったんですけど、もしも機会が出来ましたら、老蘇小学校でのコミュニティスクールでどのような取り組みがされているか、その関係者から、こういった取り組みをして、どういったメリット、良くなったという、そういったお話を関係職員からお聞かせていただく機会があったらうれしいんですけど、私一人かもわかりませんが、皆さんはよくご存じかもしれませんけれど、そういう情報が私にはなかなか入ってこないの、今、村北委員さんのお話はよくわかって良かったのですが、本当に取り組んでこられた関係職員にですね、こんなメリットがあつて、こんなに良くなったというお話が聞けたらうれしいんです。すみません、希望です。(02:09:54)
委員長：	やはり、やりっ放しではなくて、どういう成果があつたのかという結果についてご報告いただくと言うことは大事なことで、それによって我々も情報共有が出来ますので、また事務局の方で機会を設けていただきましたらありがたいと思います。(02:10:10)
中野：	すいません。何度もおしゃべりしてますけど、すいません。老蘇も、沖島も、島も小さいんですよ。だから、小さい学校はやろうと思えば出来るんですね、私もつくづくそう思います。家の息子が近江兄弟社だったんです。近江兄弟社も小さかったので、その頃はいろんな事が出来ました。だから、小さい学校での経験を、非常に難しいですけど、大きい学校だったらこうやったら出来るんじゃないかなあというのを、考えの中に一つ入れていただいて、実績を発表いただいたら、私は八幡学区に住んでいますので、八幡学区のボランティアには入っています。だけど、それとは全然違うのですね、島とは、だからその辺をなんとか、難しいことだけど、広めていかないと、桐原、金田、八幡、岡山小もこの頃そうです、その辺がものすごく難しいです。よろしくお願いします。(02:11:30)
委員長：	かなり時間が超過しておりますけれど、また、いろんな課題がございますので、一つ一つ、勉強会という形で出来れば良いなあと思いますが、今日は教育委員の皆様方にもお越しいただいて、ご意見をいただきました。私の方の進め方も悪かったかもしれませんが、コミュニティスクールに特化していただいて、意見交換をさせていただきましたけれど、時間も参りましたのでこれで終わらせていただきたいと思います。なにか皆様からご連絡事項等ございましたらどうぞ。なければ事務局からどうぞ。(02:12:20)
事務局：	ありがとうございました。時間が超過してしまいましたけれど、今日いろんな意見を出していただきましたので、またまとめさせていただきまして、次回に結びつけて行きたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また、今日は教

委員長：	育委員の皆様、結局2名ご参加と言うことで、お話は聞いていただけてと思いますので、今後いろんな場面で協働して進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。連絡というのではないですが、事務局からは以上です。(02:13:04) 以上をもちまして会議を終了させていただきます。本来ですと副委員長にご挨拶を頂戴するところですが、本日はいらっしゃいませんので、これで閉会とさせていただきます。(02:13:20)
------	---